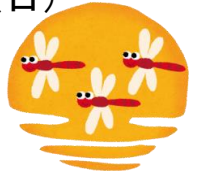


熊本市 感染症発生動向調査 速報



●RSウイルス感染症が引き続き急増しています。

先週に続きRSウイルスが急増しています。2012年の流行に並ぶ勢いです。引き続き以下の点に気を付けて感染予防に努めましょう。RSウイルス感染症はRSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。発症の中心は0～1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は感染すると言われてています。

◆どんな病気？

発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみませんが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いと言われています。また、初めての感染では症状が重くなりやすいと言われており、特に乳児の早い時期(生後数週間～数ヶ月間)に初めてRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。

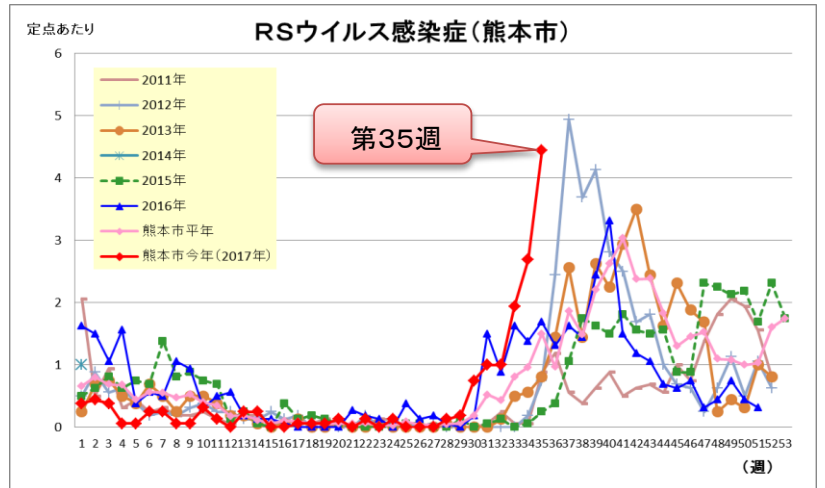
潜伏期間は2～8日程度(典型的には4～6日)です。

感染経路は感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手や物(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染があります。

流行期は例年冬季にピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、近年は7月頃から報告数の増加傾向が見られています。**感染した場合**特効薬はありませんので、治療は基本的には対症療法になります。

予防法は手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生に保つ事です。子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは、アルコールや塩素系の消毒剤などでこまめに消毒するようにしましょう。重症化のリスクの高い乳幼児には、医師の判断のもと、重症化を予防するために

パリビズマブ(シナジス)という薬を使用する場合があります。



期 間		平成29年 34週		平成29年 35週	
		8/21～8/27		8/28～9/3(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		4	0.16	1	0.04
RSウイルス感染症	流行中!!	43	2.69	71	4.44
咽頭結膜熱(プール熱)		12	0.75	9	0.56
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		18	1.13	22	1.38
感染性胃腸炎		51	3.19	45	2.81
水痘(みずぼうそう)		3	0.19	8	0.50
手足口病		41	2.56	26	1.63
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		10	0.63	9	0.56
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		23	1.44	14	0.88
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		6	0.38	5	0.31
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		17	3.40	19	3.80
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		3	0.60	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00